

4.14 授業再開阻止の非妥協的闘い に向けて、本日の集会を圧倒的に獲ちよう

全学闘の旗の下に結集するすべての学友諸君！ 三月半闘争以降の我々の組織的喪失を直視しつつ、4月授業再開阻止、学園闘争を闘い抜く針は何か、これに再び奮起すべし。

現局面の困難性は、東大・日大を頂点とする全国学園闘争が、大学管理組織様式の破産を押し進め、それを支えていける国家の政策路線、法、イデオロギー体系と鋭く抵触していることの中にはうまれている。闘争のねらる客観的到達点を主体的な力量へと駆り立て、いかなる傾向を収めて、敵の軍事力を動員した戦術的進取勢を展開され、更に国大抜路線の破産を手直し、我々せんとする策動ね、一方でそのイデオロギー的基盤を中教審分離等申として押し出すことにより、我々には大学当局への種々の煽動によってなされる。

教育大においては、ねらる全面的情勢の集約的突頭として、圧倒的なキャンパス武力制圧の後、三争組織の解体、学協管理支配体制の強化、再編収束論を強制的に承認させ、理教協の授業再開にむけての決定は、卒業証書をエサに、強制的に承認させ、なおかつ、学生自治活動の基盤そのものを破壊せんとするものがある。それはオニに「全学生に反省を促す」「誓約書を出させる」ということに露呈されているように、新三争の早業を学生自らに否定させるものがあり、築波三争の真義を固く主体化し、断固とした永続闘争宣言をたたきつける部分に対しては、学園パーシモン用をうけて、「全この闘い学生に対しては特別の措置をとる」ということである。オニに身内秩序維持への「国法」と「官憲」の導入、「学内規則の徹底」「自治会への指導の強化」として、あの中教審分離等申の示した規程に忠実に、自主規制を徹底させんとするものである。

他方文教協は(まだねはな)授業再開に同意しつつ、それを「武器」として、ロックアウト解除を主張し、その超程で自らのイニシアチブを巻き返そうとするであろう。だが、ねえに「紛争解決の戦術的有効性」並びにブルジョワ台法主義による推進派の壁を突破しえなかつた彼等は、またとや破綻をくり返すであろう。自主技術開発とこれに照準する研究機能の分離集中、そして高等教育課程の再編を押し進めている当の国家権力によって、興は彼等の存在基盤(講座制-教授会)が支えられつつあるのだ、ということに無知な彼等は、幻想としての「大学自治」イデオロギーにしねあつき、政治過程への批判的=異議的関与の放棄と引き換えに与えられた「教授」としての地位を、築波後敵という政策に好決しようとしているのだ。白日夢以外の何物でもありな。

長青はねらる文教協=反対派と歩調を合わせつつ、条件闘争としての授業再開反対「三争」ロックアウト解除請願運動を展開するであろう。

〈現段階における我々の任務〉

我々の在りかかるとは、筑波三争をめぐり情勢をくつ伏せしていくことに据えねばならないことはいささかもない。オニに、先述のよる同意団がこめられた授業再開策動を實力をもって粉砕していくことであり、オニにそれを突破口として学園闘争-一極推進体制打倒へむけて進撃していくことであり、オニに、かかる闘いを通じて全学闘の政治的イデオロギー的団結を強化していくことである。

我がフロントはさしあたり、オニ、オニの点に焦点を当て、方針を提起したい。

――三争の内包的発展を勝ち取るために――
20の数十日にわたる我々のストライキ闘争は、しかしながらいまだ学内管理支配体制を破産、解体せしめていない。教育大闘争における特殊な困難性の一つは未だ破産解体していないところの学内管理体制が、しかも政府文部省と垂力に愈着しているということにある。我々は断固たる實力闘争を通じて、又教協とカギを許さぬ対決の中から、官協推進体制とそれを異議的に許している反対派を昏めてつを打倒し、全教協の自己批判と、教授会撤退を迫らねばならない。

――三争の外延的発展を勝ち取るために――
かかる三争の発展は必然的に大学教育ととの組織形態を外制かう政治的イデオロギー-闘争を支援している政治権力との対決へと至らざるを得ない。我々には、この対決に先んじて、我々にも、さしあたりは政府の政策に對して、